

自転車国内販売動向調査月報ダイジェスト(平成23年11月)

当協会では、毎月全国100の標準自転車小売店を対象に、自転車の販売に関するアンケート調査を実施し、「自転車販売動向調査月報」としてとりまとめ発表しております。

平成23年11月の調査がまとまりましたのでその概況をお知らせします。なお詳しくは月報をご参照ください。

◎調査店1店当たりの販売台数

本月の1店当たりの新車販売は11.8台で、前年同月に比べ1.5台減の88.7%である。前年同月比で上回った車種は、幼児車150.0%のみで、横ばいが子供車、下回ったのがシティ車96.0%、ホーム車88.5%、折りたたみ車66.7%、マウンテンバイク60.0%、スポーツ車93.8%、電動アシスト車83.3%である。また前月比では全車種が下回った。

中古車は前年同月比は上回ったが、前月比は下回っている。

◎自店や他店の動向など調査店から寄せられたコメント

各店舗から寄せられるコメントは、「商圈の少ないわが町では、11月～来年2月頃までお客様が途絶え、売上げが激減して厳しくなり、真冬の4ヵ月間どう乗り切るか」(埼玉)、「冬期のため売上げは見込みなし。自転車の方は販売、修理ともだめ、毎年のことながら残念」(福井)、「9月頃までは完成車の販売は好調に推移してたが、寒さが厳しくなるにつれて先月、今月ともに低調に終わった」(山梨) などオフシーズンを告げるものが目立つ。

また、「3月の震災以降、何とか自転車屋本来の仕事ができて充実していたが、冬を感じる時期になったら例年のように心にぽっかり穴があいた。心のパンク修理は簡単ではない」(宮城)、「震災より早8ヵ月経ち、当時は夢中で商売と店舗の修理と目先のことに追われ、今ふと我に返ってみて今まで以上に厳しい環境が待っていることを感じる。大型の自転車専門店も出店し始め、従来のやり方では小さいお店は完全に修理専門店になってしまう。小さくても特徴を持った自転車の専門店として生き残れるよう模索中」(福島)など被災地ではオフシーズンに入り、震災を振り返り先行きのことを考える区切りの時期のようである。

調査店1店当たりの販売台数(総合)

[全国9地域 店舗:100]

(平成23年11月)

[単位:台 構成比:%]

車種別	本月		前月		前月比	前年同月		前年同月比
	台数	構成比	台数	構成比		台数	構成比	
シティ車	2.4	17.6	2.8	15.4	85.7	2.5	16.9	96.0
ホーム車	5.4	39.7	7.5	41.2	72.0	6.1	41.2	88.5
折りたたみ車	0.4	2.9	0.5	2.7	80.0	0.6	4.1	66.7
子供車	0.6	4.4	0.8	4.4	75.0	0.6	4.1	100.0
幼児車	0.3	2.2	0.5	2.7	60.0	0.2	1.4	150.0
マウンテンバイク	0.3	2.2	0.4	2.2	75.0	0.5	3.4	60.0
スポーツ車	1.5	11.0	1.9	10.4	78.9	1.6	10.8	93.8
電動アシスト車	1.0	7.4	1.7	9.3	58.8	1.2	8.1	83.3
合計	11.8	86.8	16.1	88.5	73.3	13.3	89.9	88.7
中古車	1.8	13.2	2.1	11.5	85.7	1.5	10.1	120.0
総合計	13.6	100.0	18.2	100.0	74.7	14.8	100.0	91.9
モーターバイク	0.4	2.9	0.4	2.2	100.0	0.4	2.7	100.0

注:モーターバイクにおける構成比欄の数字は本月販売台数総合計に対する比率である。